

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (福岡県飯塚市教育委員会)

1. テーマ

学習面で特別な教育的ニーズのある子供の早期支援の在り方についての究明
 ～多層指導モデルMIMによる異なる学力層の子供のニーズに対応した指導～

2. 問題意識・提案背景

本市の通級指導教室 (通級による指導のこと) に通級している児童生徒は年々増加傾向にあり、発達障害の可能性のある児童生徒もさらに多く在籍していると考えます。

それらの児童生徒に基礎学力をつける基盤として、小学校第 1 学年の指導で「特殊音節」を身に付けさせることは重要であり、発達障害のある子供にとっては大きな課題の一つである。「特殊音節」につまずくと、学習だけでなく日常生活にまで支障をきたすと言われている。又、つまずきの深刻化に伴い、勉強がわからないことに起因する自尊感情ややる気の低下といった二次的障害が生じる。

そこで、早期の段階で、子供がつまずく前、つまずきが深刻化する前に指導・支援を行うプログラム：多層指導モデル (MIM: Multilayer Instruction Model) を取り入れた指導により、最終的に全ての子供の学びを保障していく。

また、発達障害をはじめ特別な教育的ニーズのある子供たちを早期に支援できるような、ブロックでの研修会や巡回指導等を通したMIM指導後の組織的な支援体制をより充実させたいと考える。

3. 指定校について

指定校名：飯塚市立小学校 (全22校)												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	1193	44	1292	45	1096	41	1208	44	1206	43	1174	44
特別支援学級	22	0	27	0	26	0	39	0	21	0	23	0
通級による指導 (対象者数)	3	0	3	0	2	0	8	0	6	0	8	0
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	22	15	314	22	52	0	22	40	0	20	507	

4. 指定校における取組概要

①目的・目標

通常の学級において、学習面、特に「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子供に対して、MIMの指導を中心に、それらの子供が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の工夫改善を行い発達障害の可能性のある児童に対する早期支援の在り方について研究事業を行う。

MIMの指導で1学期に実施するアセスメント（チェックテスト）では、2ndステージ及び3rdステージの子供の割合は高くなっている。そこで、早期に集団の中で特に配慮し必要に応じて個別の指導をすることにより二次的障害をなくすよう努める。

アセスメント（チェックテスト）による数値目標として、対象児童の割合が2学期終了時点で2ndと3rdの割合を25%以下、3学期終了時点で3rdの割合を10%以下になるよう指導に努めた。

②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

- ・アセスメント（チェックテスト）の実施（毎月末）による、配慮を要する児童の把握とその実態に応じた指導
- ・個別の配慮計画をもとにした授業を通じた交流
- ・特別に配慮を要する児童の把握と共通理解
- ・教育相談の実施
- ・関係機関との連携やスクールカウンセラーの活用
- ・アセスメント（チェックテスト）のデータ入力及び活用のための研修会の実施

③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容

- ・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容
- ア. 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含むすべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善
 - （ア）動作化や視覚化による指導
 - （イ）教材の効果的な活用や教室環境整備
 - （ウ）補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮
 - （エ）校内支援体制の整備及び職員研修の実施
- イ. 適切な実態把握等による早期支援の実施
 - （ア）アセスメント（チェックテスト）の実施と個別の配慮の実施
 - （イ）個別の配慮計画をもとにした授業を通じた交流
 - （ウ）特別に配慮を要する児童の把握と共通理解
- ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容
- ア. 朝のモジュール学習における複数体制での指導
- イ. 給食の準備時間における習熟度別個別指導

ウ. 放課後補充教室における複数体制での指導

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

ア. 「個別の配慮計画」の活用

（「個別の配慮計画」は、M I M－PMテストの結果を入力後自動的に作成される個別の指導計画の簡易版である。過去のデータに基づき 2nd 及び 3rd ステージ指導の基準に照らし合わせて、児童の対象ステージが示される。特殊音節の要素ごとに配慮を要するマークが付される。）

イ. 「読みの力」定着の検証のための読書力診断検査の実施

ウ. 発達障害支援アドバイザーによる、アセスメント（チェックテスト）で明らかになった早期に支援をする必要のある児童の個別の配慮や指導の在り方及び実践後の手立ての見直しについての各校への指導助言。

5. 主な成果

本市では、重点校の飯塚小学校において使用する教材を一括作成し、各指定校に配付するとともに、発達障害支援アドバイザーによる各小学校への巡回指導による授業参観及び指導助言を行う中で、指導方法の提案や指導教材の活用方法の周知が確実にできた。これらの取り組みがアセスメント（チェックテスト）の結果にもつながり、補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導が必要な 3rd ステージの児童の割合が 30%を超えている学級が、5月に 44 クラス中 38 クラスあったのに対し 2月 は 30%を超えている学級は 3 クラスのみとなっている。

また、その他にも以下のような成果があがっている。

ア. ブロック協議会・ブロック研修会の実施

4 月初めの第 1 回 M I M 指導者研修会において、ブロック協議会・ブロック研修会の年間計画を立て、自主的に日程調整し開催することができた。

イ. 管理職・教務主任による M I M 実践事例集に係る原稿作成

原稿を作成することを通して、管理職・教務主任として M I M を校内でスムーズに導入し、定着させ、効果を出していくための校内支援体制の整備について、取組を整理することができた。

ウ. M I M－PM の入力研修の実施

現在行っている教育研究所での一括入力では、結果を配付するまでに時間がかかり、個別の配慮への時間的なロスがあったが、全体研修の中で入力演習をすることで、各学校でも入力できるようなスキルを身に付けることができた。

エ. 2 月実施の読書力診断検査における読書力については、飯塚市立小学校 1 年生の平均は 51.7 であり、全国平均 50 を上回っている。

6. 今後の課題と対応

これまで、多層指導モデル M I M による異なる学力層の子供のニーズに対応したきめ細やかな指導に努めてきたが、M I M の 3rd ステージに最後まで残る子供もおり、関係機関と連携した専門的な支援の必要性が欠かせないと感じている。平成 27

年度については、発達障害支援アドバイザーを通して 3rd ステージの子供たちを関係機関へつなぐことや、「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業運営委員会」で様々な専門家からの意見をいただくことはできているが、各学校への巡回については、発達障害支援アドバイザーのみの巡回に留まっており、学校や子供たちに直接関わるなどの具体的な取組には至っていない。平成 28 年度は教育委員会主管によりスクールカウンセラーやビジョントレーナー等の活用を具体化していき、関係機関を活用できる市の相談システムを構築する。

発達障害支援アドバイザーの巡回指導については、活用している学校は複数回要請をしているが、まだまだ十分な活用ができていない学校もあり、平成 27 年度は、年度後半より指導に課題が見られる学校に発達障害支援アドバイザーから巡回要請をしていた。平成 28 年度については、2 学期よりアセスメント（チェックリスト）の結果により課題が見られる学校については優先的に巡回していく。

MIMアセスメント（チェックテスト）結果の取り扱いについては、現在、個人懇談等において口頭で保護者に伝えているだけという現状である。結果をどのように保護者に返していくのかについては検討の必要がある。

7. 問い合わせ先

組織名：

- (1) 担当部署 学校教育課 指導係
- (2) 所在地 〒820-8605 福岡県 飯塚市 忠隈 523 番地
- (3) 電話番号 0948-22-0380
- (4) FAX 番号 0948-29-5440
- (5) メールアドレス Ed-kyouiku@city.iizuka.lg.jp